


<p>学校教育目標 自ら輝け 夢をつかめ ～笑顔・感動 はつらつ植水～</p>	<p>学校だより 瑞穂 </p>	<p>令和4年度2月号 令和5年2月1日 さいたま市立植水中学校</p>
-------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------

学校橋

校長 山口 聡



1月17日から19日に2年生館岩自然の教室が行われました。本年度は館岩少年自然の家が耐震改修工事のため、宿泊場所を変え、スキー実習は南郷スキー場での実施となりました。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に取り組みながらの活動ではありましたが、天候にも恵まれ計画通り充実した活動を行うことが出来たことを、大変うれしく思います。また、3年生は1月22日から上級学校への受験などが始まりました。そして2月には公立高等学校の受検が控えています。健康に気を付け志望進路合格に向けて、全力を発揮してほしいと思います。

加茂川団地北側に、鴨川を渡るための「学校橋」があります。さいたま市公共事業「学校橋橋梁拡幅工事」が1月10日から始まり、令和5年11月30日まで全面通行止めとなりました。私も以前植水中学校に勤務していた頃から、何度も車などで利用していました。幅が狭く、自動車ではすれ違えなかったことを思い出します。この橋の名はなぜ「学校橋」なのでしょう。その理由を校長室にある植水郷土史研究会発行の書物「うえみず 私達のふるさと」から知ることが出来ましたのでご紹介します。『明治6年に設置された植田谷学校は校舎が林光寺でした。・植水に高等科ができる以前の明治43年までは、植水の子ども達は与野町に設置された高等科に通っていました。この通学のための鴨川を渡る橋が「学校橋」と呼ばれました。・幅30センチメートル程の二本の丸太を針金で縛って架け渡した簡単なものでした。・』現在の「学校橋」は架け替えられ、3代目の橋だそうです。当時から子どもたちのためにと、地域の方々が努力されてきたことが分かる素晴らしい名前だと感じました。さいたま市では学校・地域連携による「コミュニティスクール」を推進しています。橋の名前から見られる、昔から地域が学校・子どもたちにかける想いを大切に、学校運営に取り組んでまいりますので、これからもご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。